



「持続可能な地域づくり」の 新たなチャレンジ!!

Clean × Challenge

 **セウ美装** 有限会社



はじめに

当社は昭和48年に開業、平成2年に法人化し本年で設立30周年の節目を迎えました。地元である世羅に貢献していきたいと日々思う中、ある日、SDGsの話を聞く機会がありました。当初、私はSDGsの内容を見て、水、貧困、教育といった内容だったため途上国が取り組むべきものだと思い込み、自分自身はあまり関係がないことだと関心がありませんでした。

しかし、全清連の勉強会である資料が目飛び込んできました。それは「日本の人口減少はこの国、地域も経験したことがない「世界史上例がない」圧倒的な勢いで減少の一途をたどっている」とあり、私自身、地元地域の人口減少には多少危機感を持っておりましたが、半ば「しょうがない」とも思っておりまして。しかし、人口減少のしわ寄せは想像を大きく超えるもので、警察、消防の担い手不足による治安・防災機能の低下といった社会破綻も起こりうることも予想され、SDGsは今、まさに日本の地方、地域で必要とされている取り組みなんだと強く感じました。知れば知るほどその危機感が使命感にかわり、地域のために、また未来ある子供たちのためにとの想いで真剣に取り組もうと決意をしました。

野村俊明 



会社紹介

【概要】 本社 広島県世羅郡世羅町田打596-1

社員・22名（内パート7名）

車両・4tダンプ1台 4tクレーン車1台 4tパッカー車2台 3tパッカー車7台
3tクレーン車1台 2tダンプ3台

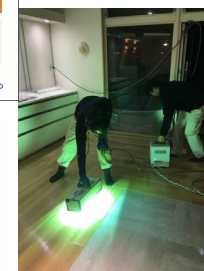
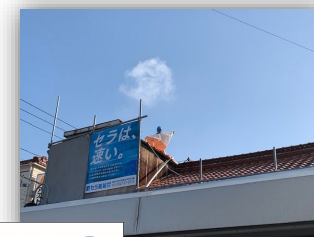
【事業内容】

- ・一般廃棄物収集運搬業（世羅町の家庭系ごみ・事業系ごみの収集運搬）
- ・産業廃棄物収集運搬業（広島県内の産業廃棄物収集運搬）
- ・建設業（木造家屋の解体・一般土木）
- ・建物清掃業（官公庁清掃業務・フロアコーティング）

【沿革】 昭和48年 前身の野村衛生社設立
平成2年 セラ美装有限会社へ法人化
平成19年 家庭ごみ収集運搬業務の競争入札化
平成20年 競争入札から随意契約へ見直しへ
平成26年 建設業を取得
平成30年 エコアクション21認証取得
令和2年 広島県働き方改革実践企業 認定
令和2年 職場環境改善のため、新社屋の建設

【関連会社】 株式会社クローバー（一般廃棄物収集運搬 三原市許可）

【イベント】 タコ釣り大会・広島東洋カープ観戦・社員旅行・忘年会・花見BQQ等の開催





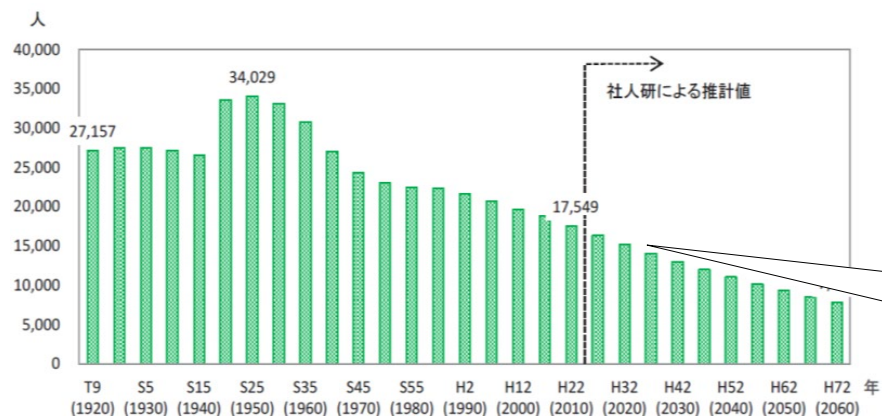
地域を取り巻く実情

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

地域における最大の課題は「人口減少」であります。世界史上例がない急激な人口減少とどう向き合うか、どう対応するかが重要になっております。

世羅町も例外ではなく、急速に進行する人口減少、労働人口の激減に伴う働き手不足は深刻です。町内の飲食店は働き手不足により営業が不能に陥るなど、問題が表面化してきております。また高齢者増加に伴う福祉サービスの限界、また限界集落の発生、高齢者と近隣のつながりの希薄化など様々な課題が山積した状況であります。そして地域の安全・安心を揺るがす大規模自然災害の発生など、地域の存亡に関わる難題にも直面しています。

当然のことながら、当社に及ぼす影響も深刻であることは予想されます。生き残りをかけてどう対応し、どう取り組むのか、待ったなしの状況であります。



令和2年1月 世羅町
人口は16,068人
ピーク時から半減して
いる





SDGs現在の取組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【一廃適正処理・3Rの推進】

リサイクル・再資源化と、再利用できるものは寄付等を行い3Rを推進しております。



【広島県働き方改革実践企業の認定】

働き方改革の一環として、9連休（5日間は有給）の取得を推奨し業務従事者全員の正社員化に取り組んでおります。



【人材育成と社員教育】

一廃、産廃講習会の受講を積極的に受講し、必要資格の取得を行っております。



【職場環境の改善】

働きやすい職場をつくるため、従業員の休憩スペース等を拡充した新社屋を建設しました。



【法令順守の徹底】

法令順守を徹底したモラルの高い会社を目指すため、勉強会の定期開催を実施しております。



【エコアクションの取組み】

エコドライブの推進、アイドリングストップ、節電、節水など常に環境負担の軽減をさらに努めております。



【災害時の迅速な対応体制の維持】

地球温暖化による自然災害が頻発しているため、常日頃より緊急対応の体制は整えています。



災害支援に参加

当社として初めて災害支援に参加したのが平成28年の熊本地震でした。支援要請のFAXを見た時は「うちみたいな規模の会社が行く必要があるのだろうか」との正直な気持ちでした。しかし、地元県連、また、全清連の皆様には大変お世話になっており、断りづらい面から参加した不純な動機でした。しかしその後は、平成30年の西日本豪雨災害、令和元年台風19号災害の支援も全力で支援をさせていただきました。一つは地域・社会貢献の意義はもちろんのことですが、一緒に参加した社員、また参加していない社員までもが著しく成長したのを実感いたしました。当社のような小規模な会社では1人、2人抜けるだけでも通常業務に大きな負担が生じてしまいます。参加していない社員も災害支援の一環と受け止め、全員で取り組んでいるとの機運が高まりました。また小規模な会社では車両も多くないので、1台抜けることにより通常行っていた業務が行えなくなるケースも生じてしまいます。その都度お客様に環境面、衛生面等で支障をきたさないことを前提に事情を説明し、理解をしていただきます。必ず皆様からは協力をしていただけます。逆に、それに協力することが我々の災害支援だと言ってくださるお客様もいらっしゃいました。災害支援の取組みが企業力の向上に繋がっております。

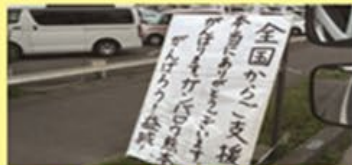


災害支援に参加して

災害支援に参加することにより社員の目覚ましい成長がありましたが、私自身も大きく成長し、また価値観を変えることができました。それは売上増加や利益の追求をすることが会社の成長だという考え方にとらわれておりましたが、しかし地域、社会貢献を目的として行動するところに会社として大きく成長でき、何があっても揺るがない地盤ができるのだと実感できました。決して一人の行動でもできないし、一人の想いでもできない、お客様、職場の仲間、家族といった周囲の多くの人々の協力や理解があるからこそ達成できるものだと気づかされました。その協力、理解を感謝と思いやる心へと繋げるために、企業理念を定めるきっかけにもなりました。



セラ美装は災害時、
廃棄物撤去の無償支援
活動に協力させて
いただいております。



● 平成28年熊本地震
熊本県での活動



● 平成30西日本豪雨
三原市での活動



● 平成30西日本豪雨
世羅町での活動



● 令和元年台風19号被害
長野市での活動



企業理念の制定へ

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

「わが社肝心要の3か条」



1. 思いやりの心

誰に対してもどんな物事にも思いやる心が肝心です。

1. 親切・迅速・丁寧

わが社の仕事はサービス業です。お客様住民の皆様には親切に、速やかに、丁寧に接することが肝心です。

1. 報告・連絡・相談

わが社の仕事は何事も一人では成り立ちません。会社に対してまた、先輩、同僚、後輩に対して報告し、連絡し、相談することが肝心です。



行動指針の制定へ

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

「思いやり 5つの行動」



- 1.落ちているゴミは必ず拾いましょう！
- 1.大きな声で先に挨拶をしましょう！
- 1.靴を脱いだら人の靴もそろえましょう！
- 1.身だしなみをきれいにしましょう！
- 1.困っている人がいたら声をかけましょう！

これからのチャレンジその①



当社として、高齢化社会の問題に貢献するため「ふれあい収集」（70歳以上の一人暮らしの高齢者、または70歳以上の高齢者のみを構成員とする世帯、足腰が不自由である高齢者などを対象）の無償サービスの提供を一部地域で開始する予定で計画をしておりました。行政に相談したところ、令和2年度途中より町の業務として発注するので問題点や制度化などを一緒に検討してほしいと提案され、「ふれあい収集」の現実化に近づけることができました。



これからのチャレンジその②



全国のSDGs認知度は約16%と浸透しておりません。しかし危機感を共有しているメンバーが声をかけあい、世羅SDGs実行委員会が結成されました。そこへ当社も「持続可能な地域」をつくるために、また、あまり知られていないSDGsの取組みの重要性を地元町民の方々に知ってもらうため委員会へ参加しております。地元の金融機関、事業所、観光農園、商工会、観光協会、料飲組合、世羅高校、新聞記者など幅広い分野の方々約20名が参加し今後のSDGsの取組みを活発に議論しております。





今後の取組み（参考資料）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs実行委員会の課題・流れ

行政との連携

世羅町関係課と連携強化。勉強会の案内。

組織化

資金管理、統制、仕組み作り。委員会のネーミングが必要。団体設立の準備、規約等の取り決めが必要

勉強会の開催

他市町の取組みや、活動などを当地の講師を招いて講演会の開催。岡山県真庭市の取組みを担当者を招いて講演予定。

趣意書理念

プロジェクトの趣旨を明記、文書化が必要。

行動計画

今後の行動・活動内容を決めよう。

取組み

自身の属している会社、組織、団体でSDGsの取組みや紐づけ作業などを行っている。

人口減少のともなう地域経済の激変・働き手不足による社会破綻
限界集落の発生・地球温暖化による大規模自然災害の頻発

様々な取組み(例)

バックカスティング

日本でのSDGsの認知度は約16%。全町民を対象としたシンポジウムの開催

地域の近隣とのつながりが希薄化。高齢者と若者の接点を築くコミュニティ運動

これから起こり得る地域問題の危機感を共有

若者転出を食い止めるために魅力ある職場づくり

2030年では今の小・中学生はほぼ社会人。地域の未来をつくる学習会の開催

地域の商店で買い物を推奨して存続を！高齢者の買い物難民化の防止。

SDGsの情報発信できるベース・プラットフォームの開設

地元の野菜はほぼ町外へ。おいしい安全な野菜を地元の子供達へ

フォアカスティング

「持続可能」な地域をつくるために
全町民でSDGsを取り組む

私たちが直面する様々な社会課題に対し、会社として、また個人として何ができるのだろうかと思いを改めて考えさせられました。地元世羅町の豊かな自然環境と、いつまでも住み続けられる地域環境を守り続けたい想いは、理想だけでも、行動だけでも果たせません。志を共にする、多くの企業や組織など、より多くのステークホルダーとパートナーシップを組み、新しい未来を生み出していくことが重要であると感じました。また、「持続可能な世羅町を全員でつくろう」というチャレンジングな目標に、今までの「認識のしかた」や「考え方」「常識」を飛び越えるパラダイムチェンジが必要でもありました。何よりも、「自分自身の考え方や行動がパラダイムにとらわれていないか」と、しっかりと見つめ直していく事もSDGsの取組みの一つであることに気づかされました。

「ムーンショット」という言葉があります。月に行けたから行ったのではなく、月に人類を着陸させたいという目標があったからチャレンジしました。できないのではなく、やらなければならない。私たちも今、壮大な目標に向けて歩みだしています。

おわりに

